

令和6年度 ララスマイルあおば 事業所による自己評価総括表（公表）

護者評価実施期間：令和6年10月4日～10月31日 対象者数：35 回答数：26 従業者評価実施期間：令和6年10月4日～10月18日 対象者数：10 回答数：10
 自己総括表作成日：令和6年11月5日 公表日：令和6年11月21日

	事業所の強みだと思われること (より強化・充実を図ることが期待されること)	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同学年や歳が近い利用者がまとまって利用している	学校行事やイベントに合わせて、同学年との話し合いや相談等のやりとりを含めた活度設定をしている。	異学年の子との関わりから得られることもあることから、交流の機会を増やし、活動に応じて編成を行う。
2	保護者との情報共有と相談の機会	お迎えに来られた保護者と1対1で、事業所のことだけでなく自宅や学校の様子も含めて情報共有をしている。連絡帳や個別のチェック表などを活用して、状況把握と共通認識をもてるよう工夫している。	自宅送迎を兼ねた家庭訪問など、普段迎えに来られない方とも密に情報共有できるようにしていく。
3	事業所の設置場所。公園やお店、公共交通機関が充実している	ライフステージに応じて、実生活につながる外出や体験の機会を提供している。	交通マナーやお店でのマナーなど、個別や小グループで家族とは違った視点での経験が得られる機会を作っていく。

	事業所の弱みだと思われること (事業所の課題や改善が必要だと思われること)	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	イベントや行事関係やその他必要とされる情報などを発信する機会が少ない	個別に連絡帳等での伝達や、お迎え時の情報共有、個別の相談など機会が多く、全体としての情報発信まで対応できていない。	個別での情報発信はもちろん、全体に向けたおたよりの発行の機会を増やすなど、必要とされる情報を発信していく。
2	児童クラブが近隣にあるが、交流の機会がつかれていない。	情報発信が低い。利用している子の中には、利用していることを知られたくない子もいて、どのような交流の機会が良いか検討できていない。	児童クラブへの移行を視野にいれた支援提供を行う。児童クラブの困り感にも相談に応じるなど、まずはお互いを知る交流を職員が深めていく。
3	家族支援の不足 (保護者の悩みへの対応と保護者同士の交流の機会)	横のつながりを持ちたいと感じている保護者の方はいると認識しているが、開催時期や内容について迷いがあり、具体的な計画にまで至っていない。	保護者アンケートをとるなどして必要とされていることを把握する。外部講師なども含めて検討していく。